

## 「超簡単!豆電球工作(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

3年生に限らず。小学生は「ものづくり」が好きである。特に、自分の作品の一部が光るというのは、今までのものづくりにはなかった体験で、このように非常に単純な工作でも、夢中になって取り組むものである。作品も個性的で、一人ひとりのものが、実に楽しく、本当に見飽きない。



これは「**お山から昇った満月**」目を細めて見ると、本当に満月のように見えるのが面白い。豆電球は超ミニサイズながら「白熱球」なので、LEDランプのはちがって、月光のようなやわらかい光を発するのだ。この作者の子どもは、その光の色が月の光に似ていると思ったのだろう。



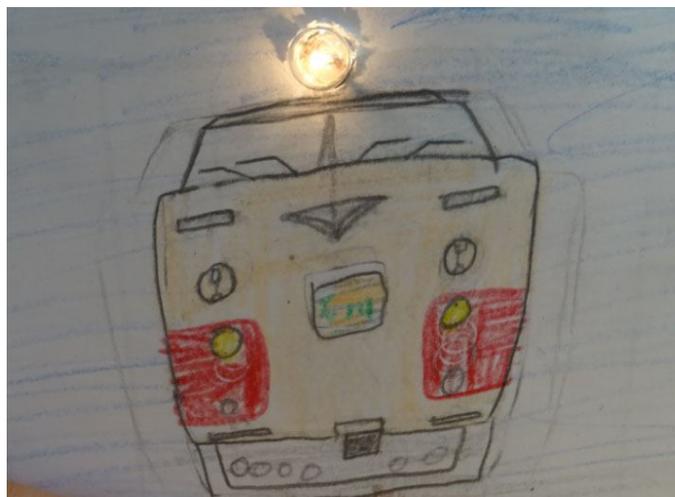
こちらは「**クリスマス・ツリー**」いくつも描かれたランプのうち、一つしか灯っていないのがいい。「もっと豆電球たくさんあったらなー」と言っていた。



「**お山とお家と月**」この構図は、明らかに私が描く絵の影響を受けている。子どもは、知らず知らずのうちに大人の影響を受けるものなのだろう。



「**オバケちゃんのパーティー**」・・・「真ん中の黄色く光っているものはなあに？」と聞いたら、「オバケのよつの、黄色い玉」という、奇怪な答えが返ってきた。



そして男の子の定番「**特急列車**」ワイパーや汽笛、ヘッドマークなどがリアルだ。「これは183系ではなく、189系です」と、マニアックな説明をしていた。